

10月の支出(図書、備品、慶弔、飲食除く)

80,884円

情報公開の第一歩 政治資金を見えるようにします。

印刷代(月刊武松印刷代)	17,870円
交通費(駐車場、燃料代、高速代)	12,948円
会場費	2,200円
通信費(携帯電話代、折込代)	47,866円
支出計 14/10/6~14/11/3	80,884円

市政を考える 月刊武松

発行日
14/11/4

第148号

16300部発行

たけまつ ただし

頒布責任者：武松 忠(市議会議員)
武松政策研究会

ごみ処理広域化の検討状況

小田原市・足柄下地区のごみ処理 現在の考え方をお知らせします！

市も様々な課題がある中、一日たりとも停止できないサービスがごみ処理です。その広域化計画が一部変更され一年、本年9月補正予算で焼却施設整備基本設計委託料が計上されたので解説します。

■ごみ処理広域化の必要性

1 ごみの減量化とリサイクルの推進

ごみの分別方法の統一などを行い、焼却されるごみが減少するとともに、より高度な処理が可能。

2 地球温暖化防止への貢献

余熱を利用した発電等が行うことにより、化石燃料等の消費を抑えることができる。

3 ダイオキシン類の発生の抑制

焼却施設の24時間稼働とごみ処理技術を高度化できることから、ダイオキシン類の発生を抑える。

4 ごみ処理経費の縮減

ごみ処理施設を集約化し、広域的にごみ処理を行うことにより、建設費や維持管理費を削減できる。

■ごみ処理広域化の検討と調整に時間

ごみ処理に対し各市町に共通した課題に対応するため、2006年度に「小田原市・足柄下地区ごみ処理広域化協議会」を設立し、ごみの広域的な処理(ごみ処理広域化)について検討しています。2009年6月には、それまでの検討報告として、ごみ処理広域化を進めていく上での考え方や取り組みなどを示した「ごみ処理広域化の考え方」を公表しました。

しかし、調整に時間がかかり、計画年度までに達成が困難なことやその間に焼却炉の老朽化が進むなど、当初の「ごみ処理広域化の考え方」を一部変更せざるを得なくなりました。(2013年11月)

■一部変更に至るまでの課題

- ・1市3町のごみ分別方法や出し方の統一。
- ・新しい焼却施設を作る場所の受け持ちである小田原市の候補地検討など、時間を必要とする課題が多くある。
- ・2020年度に新しい体制に入ることは難しい。

■変更内容

当面は、広域化(集約)を見据えながら、老朽化している現在の施設の基幹的な設備改良も視野に、

- ・小田原市と足柄下郡の2つの系統でごみ処理体制を組み立てていく。
- ・ごみの分け方や出し方の統一を目指す。
- ・地区全体で効率の良い収集体制を検討する。
- ・今後ごみ処理広域化(集約)に向け進めていく。

■焼却施設整備基本設計委託料が計上

本年9月定例会に焼却施設整備基本設計委託料が計上され可決されました。これは一部変更により、当面、小田原市と足柄下郡の2系統でごみ処理体制となることから、小田原市の焼却場の延命化をするための設計委託料です。委託期間は、来年3月末までとなります。

裏面に続く→

表1 ごみ処理広域化に必要な施設(2009年6月)

施設	整備手法	施設数	規模（概算）	稼動目標年度	建設費（概算）	設置区域
ごみ焼却施設	新設	1	320t/日	2020	170億円	小田原市
最終処分場	新設	1	53,000 m ³	2020	30億円	3町のいずれか
リサイクルセンター	新設	効率性の観点から、施設の集約化の可能性等を検討していく				
中継施設	運搬の効率性や環境負荷の軽減の観点から、整備の必要性を検討していく					

ごみ処理一部変更と課題

- 表1のごみ処理広域化の考え方より、
- ・小田原市にごみ焼却場を新設（170億円）
 - ・下郡3町の何れかに最終処分場（30億円）を新設
 - ・リサイクルセンター新設、中継施設検討

表2の現在の焼却施設の状況より、小田原市の老朽化が目立ちます。

表3の将来ごみ予測からは、

- ・年間ごみ量：11万3782 t 311 t/日
 - ・小田原市の年間ごみ量：7万9938 t 219 t/日
 - ・下郡の年間ごみ量：3万3844 t 93 t/日
 - ・小田原市の年間事業系ごみ量：1万4911 t
 - ・下郡の年間事業系ごみ量：2万0080 t
- 観光地を抱える下郡は事業系が多い。

課題

- ・2系統で処理能力をどう設定するか？
- ・湯河原-箱根で1時間かかるため、運搬経費高。
- ・焼却炉整備で集約が20~30年遅れる。

表2 現在の焼却施設の概要

	小田原市清掃工場		箱根町環境センター	湯河原美化センター
処理方式	全連続焼却	全連続焼却	準連続焼却式	準連続焼却式
処理能力	180 t /24h (90t/24h×2炉)	150 t /24h (75t/24h×2炉)	135t/16h (67.5t/16h×2炉)	70t/16h (35t/16h×2炉)
竣工年月日	1979年6月	1991年3月	1993年3月	1995年7月

表3 2020年度ごみ量の予測（単位：t/年）※トレンド推計法により、2005年度までの実績を基に推計

区分	小田原市	箱根町	真鶴町	湯河原町	合計
家庭系	65,027	3,173	2,427	8,164	78,791
事業系	14,911	12,047	2,107	5,927	34,991
総ごみ量	79,938	15,220	4,534	14,091	113,782

The Voice 皆様のご意見から

通学路に歩道又はガードレールの設置を 匿名女性

「月刊武松」をいつも拝読させていただいています。今回お便りしたのは「通学路に歩道又はガードレールの設置をして欲しい」お願いです。中曽根の小田原アリーナ、東富水小学校、東富水幼稚園へ向かう道です。現在、細いグリーンベルトの表示がありますが、それよりも川をふさいでその上を歩道にして欲しいです。3つも公共施設がある割には狭く、又最近の車は静かなので歩行者も気づきにくいです。

通学路の安全は親の願いです。まず、河川への蓋掛けをし歩道にする件ですが、農業用水であり、下流に水田があるため、水温の低下が農家の理解を得られないとのことでした。さらに、河川に隣接した住宅の入口や駐車場となっている部分もあることから、蓋掛けし歩道とするには用地取得等も発生する為、アリーナ設置の際の周辺道路整備の計画から外れているとのことでした。また、現状のままガードレールを設置すると、車の交差通行に支障が生じ、それ自体が歩行者への障害物になりかねないことからご要望の件は、実現が困難です。大変申し訳ありませんが、保護者と地域で見守り活動をしていきたいと思います。

武松忠議会報告会のお知らせ

11月の議会報告会 どなたでも参加できます。

日時：11/22(土)18時~20時

場所：小田原市民会館6階 第1多目的室

テーマ：「ごみ処理広域化について」

参加費：100円 終了後、実費で懇親会を行います



HPIは、**YAHOO!**で「たけまつただし」 月刊武松バックナンバー全て掲載しています。

寄付は、ジャパンネットバンク 本店 普通口座 7941377 タケマツタダシ

さがみ信用金庫 国府津支店 普通口座 0051228 武松政策研究会 武松忠 まで

月刊武松は本人が配布しているため、行き届かないところがありますが、読み終わりましたら知合いの方にお渡しいただくと幸いです。また、eメールでも送付していますので連絡下さい。